

1. 略歴

1987年3月	東京大学文学部第1類哲学専修課程卒業
1990年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
1990年4月	同 博士課程進学 (1994年9月 退学)
1991年10月	ケンブリッジ大学大学院古典学部 Ph.D. コース入学
1995年10月	同大にて Ph.D. 取得
1996年10月	九州大学文学部講師 (哲学・哲学史)
1998年4月	九州大学文学部、大学院人文科学研究科助教授 (哲学・哲学史)
2002年4月	慶應義塾大学文学部助教授 (哲学)
2006年3月	オランダ・ユトレヒト大学訪問研究員 (慶應義塾大学塾派遣留学 : 2007年9月まで)
2007年4月	慶應義塾大学文学部准教授 (哲学)
2008年4月	慶應義塾大学文学部教授 (哲学)
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋古代哲学、西洋古典学

b 研究課題

西洋における哲学の成立を、古代ギリシア哲学の初期から後期にかけて、哲学史と古典文献学の手法を用いながら多角的に検討することを課題とする。主なテーマとして、(1) 紀元前5~4世紀の古典期アテナイの知的状況、具体的には、ソフィスト思潮、ソクラテス、ソクラテス文学、プラトン、イソクラテスら、(2) 初期のイオニアとイタリアの知的状況、および、(3) ヘレニズム期から古代後期にかけての継承と展開、を扱っている。それらの分析をつうじて、現代における「哲学」のあり方を根源から見直し、新たな視野を得ることを目的としている。

また、古代ギリシア哲学が、19世紀以降の日本や東アジアにどのように導入され、翻訳や研究をつうじて社会や思想に影響を与えてきたかという受容史、もテーマにしている。

c 概要と自己評価

2016年度より以前には、(1)の古典期アテナイ哲学を研究の中心に据えて、複数の研究書など成果をまとめてきた。2016~17年度にはさらにその研究を継続し、プラトン『ポリテイア』を中心とする「イデア論」の解明をより詳細に進めた。他方で、研究の重点を(2)により移し、ギリシア哲学史の枠組みを作るべく、その方法論を確保した上で、まずは初期イオニアの哲学、および、イタリアの哲学に研究の焦点をあててその範囲で研究をまとめつつある。これらの作業をつうじて、ギリシアで哲学が誕生した前6世紀初めからヘレニズムに入る以前の前4世紀後半までのもっとも重要な3世紀ほどを全体として視野に入れつつ、それを「ギリシア哲学史」としてまとめる作業を進めている。この成果は2年後(2020年度)に単行本としてまとめる予定でいる。

日本やアジアへのギリシア哲学の受容史は、国内では関連する日本哲学者(大西祝、西田幾多郎、井筒俊彦、田中美知太郎、井上忠ら)の業績を反省することからはじめ、それらの検討を継続して進めている。この主題は海外でもおおく注目されており、グローバル古典学の学会や、プラトン受容に関する国際学会で発表する機会を得て、その成果に対して意見を聞くことができた。こういったテーマでの国際的な研究発表はまだ貴重なものであり、高い評価を得ている。

専門分野の学術研究のほかには、読売新聞での読書委員を2年間つとめてさまざまな新刊書籍の書評で一般への学問紹介、啓蒙活動を行ってきた。自然科学者との対談や各地での学術講演会などにも数多く参加し、古代ギリシア哲学を広く紹介する役割も果たしている。

全体として、古代ギリシア哲学の専門研究と一般的な教育・普及の仕事とを、バランスよく行って成果を出したと考える。

d 主要業績

(1) 著書

単著、納富信留、『哲学の誕生 —ソクラテスとは何者か—』、ちくま学芸文庫、2017.4

(2) 論文

- Noburu Notomi, "Phaedrus and the Sophistic Competition of Beautiful Speech in Plato's *Symposium*", *Plato in Symposium*, Academia Verlag, 124-130 頁、2016.6
- 納富信留、「裁判員は何を被ったのか?—プラトン『ソクラテスの弁明』冒頭のメッセージ」、『フィロロギカ—古典文献学のために』11、古典文献学研究会、57-61 頁、2016.7
- 納富信留、「精神と肉体 オリンピックの哲学」、橋場弦・村田奈々子編『学問としてのオリンピック』、山川出版社、57-104 頁、2016.7
- 納富信留、「出で遭いへの言葉—井上忠との哲学」、『根拠・言語・存在』、哲学会編哲学雑誌 131/803、有斐閣、34-52 頁、2016.10
- 納富信留、「西田幾多郎と田中美知太郎—日本哲学とギリシャ哲学の協働のために—」、『日本哲学史研究』13 号、京都大学大学院文学研究科日本哲学史研究室紀要、1-32 頁、2016.12
- Noburu Notomi, "Reconsidering the Relations between the Statesman, the Philosopher, and the Sophist", *Plato's Statesman: Dialectic, Myth, and Politics*, John Sallis ed., SUNY Press, pp. 183-195, 2017.1
- Noburu Notomi, "Plato's *Sophist*", Oxford Bibliographies in "Classics", Ed. Dee L. Clayman, New York: Oxford University Press, 2017.3(URL:<http://www.oxfordbibliographies.com/view/document/obo-9780195389661/obo-9780195389661-0247.xml?rskwy=26czk0&result=155> DOI: 10.1093/OBO/9780195389661-0247)
- 納富信留、「ギリシア哲学史の可能性—複眼的哲学史を書く試み—」、東京大学文学部次世代人文開発センター研究紀要『文化交流研究』第 30 号、東京大学文学部次世代人文開発センター、1-14 頁、2017.3
- Noburu Notomi, "Freedom and the State in Plato's *Politeia (Republic)*: Reconsidering the concept of '*politeia*'", *JASCA (Japan Studies in Classical Antiquity)* 3, The Classical Society of Japan, pp. 57-68, 2017.3
- 納富信留、「始まりを問う哲学史—複眼的ギリシア哲学史の試み—」、日本哲学会編『哲学』第 68 号、45-62 頁、2017.4
- 納富信留、「プラトン『ポリテイア』I.334d-e のポレマルコス論駁」、『フィロロギカ—古典文献学のために』12、古典文献学研究会、53-62 頁、2017.6
- 納富信留、「プラトン「太陽」の比喩」、山内志朗編『光の形而上学—知ることの根源を辿って—』、慶應義塾大学言語文化研究所、慶應義塾大学出版会、5-25 頁、2018.2
- 納富信留、「日本人はギリシア哲学をどう読んできたか—大西祝、西田幾多郎、田中美知太郎』、『点から線へ』第 67 号、西田幾多郎記念哲学館、38-81 頁、2018.3
- 納富信留、「伝プラトン著『第七書簡』の再検討—前四世紀の書簡文学から—」、日本西洋古典学会『西洋古典学研究』LXVI、2018 年 3 月 23 日、23-34 頁、2018.3

(3) 書評

- 納富信留、「過熱報道の原点に遡る」、浜田幸絵著『日本におけるメディア・オリンピックの誕生』、『読売新聞』2016 年 4 月 3 日号、2016.4
- 納富信留、「密教の奥義を迫体験」、高木神元著『空海の座標』、『読売新聞』2016 年 4 月 17 日号、2016.4
- 納富信留、「「逸脱」に可能性見る」、田口卓臣著『怪物的思考 近代思想の転覆者ディオドロ』、『読売新聞』2016 年 4 月 24 日号、2016.4
- 納富信留、「低評価一新する評伝」、トリストラム・ハント著『エンゲルス マルクスに将軍と呼ばれた男』、『読売新聞』2016 年 5 月 8 日号、2016.5
- 納富信留、加藤尚武著『死を迎える心構え』、『読売新聞』2016 年 5 月 29 日号、2016.5
- 納富信留、「今も重い 終末への警告」、ギュンター・アンダース著『核の脅威 原子力時代についての徹底的考察』、『読売新聞』2016 年 6 月 5 日号、2016.5
- 納富信留、「生と死から人間見る」、村上靖彦著『仙人と妄想デートする 看護の現象学と自由の哲学』、『読売新聞』2016 年 6 月 19 日号、2016.6
- 納富信留、「混迷の時代 本質を見極める：花盛り 哲学入門書を読む」(田中さおり『哲学者に会いにゆこう』、三好由紀彦『哲学のメガネ』、藤田大雪『ソクラテスに聞いてみた』、平原卓『読まずに死ねない 哲学名著 50 冊』、畠山創『大論争! 哲学バトル』、『読売新聞』2016 年 7 月 3 日号、2016.7
- 納富信留、「蠱惑的な文化論」、ジャン=マルク・ドローアン著『昆虫の哲学』、『読売新聞』2016 年 7 月 31 日号、2016.7
- 納富信留、「夏休みの 1 冊」(トーマス・マン著『ヴェネツィアに死す』、『読売新聞』2016 年 8 月 14 日号、2016.8

納富信留、「知的遊戯の迷宮へ」、八木沢敬著『『不思議の国のアリス』の分析哲学』、『読売新聞』2016年8月21日号、2016.8

納富信留、「裏方の苦楽生き生きと」、橘宗吾著『学術書の編集者』、『読売新聞』2016年9月4日号、2016.9

納富信留、「広く深い哲学からはるかな現実を見る 過酷な現実から理論の深みへ降りてくる」、Journalism ジャーナリズム、316号、朝日新聞社、54-59頁、2016.9

納富信留、「「有罪」「無罪」二つの筋」、フェルディナント・フォン・シーラッハ著『テロ』、『読売新聞』2016年9月11日号、2016.9

納富信留、「欧州型から米国型へ」、天野郁夫著『新制大学の誕生 上・下』、『読売新聞』2016年10月2日号、2016.10

納富信留、大黒岳彦著『情報社会の＜哲学＞』、『読売新聞』2016年10月9日号、2016.10

納富信留、「読者と一緒に考える」、青山拓央著『幸福はなぜ哲学の問題になるのか』、『読売新聞』2016年10月23日号、2016.10

納富信留、「情念を動かす哲学を」、エルネスト・グラッソ著『形象の力 合理的言語の無力』、『読売新聞』2016年11月13日号、2016.11

納富信留、「12人が意義を問い直す」、逸身喜一郎ほか編『古典について、冷静に考えてみました』、『読売新聞』2016年11月20日号、2016.11

納富信留、「生と死を迫体験する旅」、山折哲雄著『「ひとり」の哲学』、『読売新聞』2016年12月4日号、2016.12

納富信留、「庄巻の『リア王』解釈」、スタンリー・カヴェル著『悲劇の構造 シェイクスピアと懐疑の哲学』、『読売新聞』2016年12月11日号、2016.12

納富信留、「2016年の3冊」(河野哲也『いつかはみんな野生にもどる 環境の現象学』、野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』、山本巍訳・解説『プラトン饗宴 訳と註解』)、「読書委員この一年」、『読売新聞』2016年12月25日号、2016.12

納富信留、佐藤透著『美と実在 日本の美意識の解明に向けて』、『読売新聞』2017年1月15日号、2017.1

納富信留、「文学を愛した人々の生涯」、川西政明著『大岡昇平 文学の軌跡』、『読売新聞』2017年1月22日号、2017.1

納富信留、鈴木球子著『サドのエクリチュールと哲学、そして身体』、『読売新聞』2017年2月12日号、2017.2

納富信留、「哲学の喜びへ導く箴言」、フリードリヒ・ニーチェ著、森一郎訳『愉しい学問』、『読売新聞』2017年3月12日号、2017.3

納富信留、「相手方から新たな光」、W. カスパー著、高柳俊一訳『マルティン・ルター エキュメニズムの視点から』、『読売新聞』2017年3月26日号、2017.3

納富信留、「もっとも大きな謎」、網谷祐一著『理性の起源』、『読売新聞』2017年4月9日号、2017.4

納富信留、高秉權著『哲学者と下女』、『読売新聞』2017年4月23日号、2017.4

納富信留、「新たな思考の可能性」、國分功一郎著『中動態の世界 意志と責任の考古学』、『読売新聞』2017年5月7日号、2017.5

納富信留、「教育と「道理」の哲学者」、貝塚茂樹著『天野貞祐』、『読売新聞』2017年5月14日号、2017.5

納富信留、「英国社会の模索と課題」、藤原聖子著『ポスト多文化主義教育が描く宗教』、『読売新聞』2017年5月28日号、2017.5

納富信留、「理論と実践と宗教と」、相馬伸一著『ヨハネス・コメニウス』、『読売新聞』2017年6月11日号、2017.6

納富信留、「分析的実存哲学に挑む」、L. A. ポール著『今夜ヴァンパイアになる前に』、『読売新聞』2017年6月25日号、2017.6

納富信留、山内廣隆著『昭和天皇をポツダム宣言受諾に導いた哲学者』、『読売新聞』2017年7月9日号、2017.7

納富信留、「学問の雄大なうねり」、J.H. エリオット著『歴史ができるまで』、『読売新聞』2017年7月23日号、2017.7

納富信留、「フランス現代思想を読み直す：彼らの問い、贅沢に味わう」(川田順造『レヴィ＝ストロース論集成』、ミシェル・フーコー『処罰社会』、ジャック・デリダ『死刑 I』)、『読売新聞』2017年7月30日号、2017.7

納富信留、「夏休みの1冊」(ヘンリー・ジェイムズ著『ねじの回転』)、『読売新聞』2017年8月13日号、2017.8

納富信留、「憂える改革、大学の危機」、コンラート・パウル・リースマン著『反教養の理論』、『読売新聞』2017年8月20日号、2017.8

納富信留、「哲学に特権性はないか」、植原亮著『自然主義入門』、『読売新聞』2017年9月3日号、2017.9

納富信留、轟孝夫著『ハイデガー『存在と時間』入門』、『読売新聞』2017年9月17日号、2017.9

納富信留、「西洋近代思想への警鐘」、佐藤和夫著『＜政治＞の危機とアーレント』、『読売新聞』2017年10月8日号、2017.10

納富信留、「持続可能な「農」を模索」、ポール・B・トンプソン著『<土>という精神 アメリカの環境倫理と農業』、『読売新聞』2017年10月15日号、2017.10

納富信留、「社会との関わり明らか」、島田裕巳著『日本の新宗教』、『読売新聞』2017年10月29日号、2017.10

納富信留、「書物の大河が訴える力」、添谷育志著『背教者の肖像』、『読売新聞』2017年11月5日号、2017.11

納富信留、「マイケル・ベンソン著『世界<宇宙誌>大図鑑』、『読売新聞』2017年11月19日号、2017.11

納富信留、「博搜的思索の到達点」、神崎繁著『内乱の政治哲学 忘却と制王』、『読売新聞』2017年11月26日号、2017.11

納富信留、「本当に悪者なのか?」、ジャン＝ノエル・ミサ、パスカル・ヌーヴェル編『ドーピングの哲学』、『読売新聞』2017年12月3日号、2017.12

納富信留、「不変の問いと向き合う」、飯田隆著『新哲学対話』、『読売新聞』2017年12月17日号、2017.12

納富信留、「2017年の3冊」(星野太『崇高の修辞学』、フランソワ・アルトール『オデュッセウスの記憶』、小島毅『儒教の歴史』)、「読書委員この一年」、『読売新聞』2016年12月25日号、2017.12

(4) 学会発表

国際、Noburu Notomi, “Imagination for philosophical exercise: the story of Gyges’ ring and the simile of the Sun”, New Perspectives on Plato’s Philosophy (Novas Perspectivas na Filosofia de Platão), UF ABC, São Bernardo do Campo, São Paulo, Brasil, 2016.6.30

国際、Noburu Notomi, “The soul and Forms in Plato’s *Phaedo*”, XI Symposium Platonicum, International Plato Society, Universidade de Brasília, Brasil, 2016.7.6

国際、Noburu Notomi, “The role of Plato in modern Japanese Philosophy”, The 3rd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia (CCPEA 2016), Seoul National University, Seoul, Korea, 2016.8.20

国際、Noburu Notomi, “Imagination for Philosophical Exercise in Plato’s *Republic*: The Story of Gyges’ ring and the Simile of the Sun”, Ancient Worlds Research Cluster Meeting at Yale-NUS, Yale-NUS, Singapore, 2016.10.26

国内、納富信留、「始まりを問う哲学史—複眼的ギリシア哲学史への試み」、日本哲学会第76回大会、シンポジウム「哲学史研究の哲学的意義とはなにか?」、一橋大学国立キャンパス、2017.5.20

国内、納富信留、「伝プラトン著『第七書簡』の再検討—前四世紀の書簡文学から—」、日本西洋古典学会第68回大会、千葉商科大学、2017.6.4

国内、納富信留、「哲学とは何か」、哲学会第56回研究発表大会、東京大学本郷キャンパス、2017.10.28

国内、納富信留、「ソロンよ、ソロンよ、君たちギリシア人はいつまでたっても子供だ—古典期ギリシアから見たエジプト—」、第七回東京大学東洋文化研究所・復旦大学文史研究院・プリンストン大学東アジア学部共催国際学術会議「古代における「古代」」、東京大学本郷キャンパス東洋文化研究所、2017.12.16

国際、Noburu Notomi, “Mouvance?: An open tradition of Protagoras’ *On Gods*”, The International Protagoras Network Workshop, Université d’Aix-Marseille, Aix-En-Provence, France, 2018.3.19

(5) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B)、納富信留、Noburu Notomi、研究代表者、「古代ギリシア文明における超越と人間の価値—欧文総合研究—」、2016～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

納富信留、コメンテータ、日仏哲学会ワークショップ「ベルクソンの二元論を再考する」、持地秀紀「ベルクソン『創造的進化』における一と多」へのコメント、学習院大学目白キャンパス、2016.9.9

納富信留、講演、平成28年度第9回西田幾多郎哲学講座「ギリシアにおける哲学者の誕生」、西田幾多郎記念哲学館、石川県かほく市、2016.10.22

納富信留、講演、平成28年度第10回西田幾多郎哲学講座「日本人はギリシア哲学をどう読んできたのか」、西田幾多郎記念哲学館、石川県かほく市、2016.10.23

納富信留、講演「古代ギリシア哲学から問う起源(アルケー)」、第2回東京工業大学地球生命研究所(ELSI)・東京大学カブリ数理連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)合同一般講演会「起源への問い」、東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホール、2017.1.22

納富信留、模擬講義「プラトンの問いかけ」、東京大学オープンキャンパス2017、東京大学文学部、2017.8.3

納富信留、講演「伝プラトン『第七書簡』「脱線部」を読む」、第173回PHILETHセミナー、北海道大学文学研究科・文学部、哲学倫理学研究室、北海道大学古川講堂、2017.9.1

納富信留、講演「ギリシア哲学史の可能性」、第 27 回 新潟哲学思想セミナー (NiiPhiS)、新潟大学五十嵐キャンパス、2017.9.14

納富信留、講演「ギリシア哲学と宇宙」、アストロノミー・パブ、三鷹ネットワーク大学、2017.11.18

納富信留、講演「「善く生きる」を考える哲学」、シンポジウム 2017「がんになっても安心して暮らすために～緩和ケアを理解しましょう」、NPO 法人 Spes Nova 主催、横浜市開港記念館講堂、2017.12.9

納富信留、模擬講義「ギリシア哲学への誘い」、模擬授業「学問の面白さを学ぶ」、東京都立小山台高等学校、2017.12.22

納富信留、研究会報告「タレスはなぜ哲学の創始者とされたのか？—イオニア自然学の起源をめぐって—」、慶應義塾大学言語文化研究所、公募研究プロジェクト「自然世界と人間」研究報告会、三田キャンパス東館、2018.2.24

(2) 学会

International Plato Society, Advisory Board, 2013.7-

日本学会会議・連携会員、2014.10-

日本西洋古典学会・委員 (2001.6-)、常任委員 (2016.6-)、編集委員 (2010.12-2016.12)

日本哲学会・評議員 (2011.6-) ; 理事 (2015.5-) ; 欧文誌編集委員長 (2016.5-2018.5)

新プラトン主義協会・理事 (2012.9-2016.9)

西日本哲学会・評議員 (2012.11-2016.11)

フィロロギカ [古典文献学研究会]・編集委員 (2005.10-)

ギリシャ哲学セミナー・運営委員 (2005.9-)、幹事 (2015.9-)

The Korean Society of Greco-Roman Studies, Editorial Board (2008.8-)

Korean Philosophical Association, Editorial Board (2013.3-)